

## 第1回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

|     |   |   |       |   |        |   |           |   |
|-----|---|---|-------|---|--------|---|-----------|---|
| 日 時 | 令和4年7月25日(月)<br>16時00分～17時00分   |   |       |   | 会 場    |   | 市役所304会議室 |   |
| 委 員 | 船越 美穂   | ○ | 中山 健  | 欠 | 木部 里美  | ○ | 北岡 かや子    | ○ |
|     | 瀧口 千恵子  | ○ | 牛島 昌哉 | 欠 | 前田 志津子 | 欠 | 奥村 美香     | ○ |
|     | 溝田 こころ  | 欠 | 岩下 桃子 | ○ | 大和 寿美  | ○ | —         |   |
| 事務局 | 高宮教育長、(教育子ども部子どもグローバル人材育成担当部長)早川部長、<br>(子ども支援課)石松係長、姫野係長、(子ども家庭課)山本係長、<br>(子ども育成課)田中課長、賀来教育指導主事、瀧口係長、飯野係長、米野、三吉 |   |       |   |        |   |           |   |

- 1 あいさつ  
(教育長、会長よりあいさつ)
- 2 委嘱状の交付
- 3 委員、事務局の紹介  
(審議会委員の自己紹介及び事務局職員の紹介)
- 4 会長、副会長の選出 (会長に船越委員、副会長に前田委員を選出)
- 5 議事録について  
作成方法は、会議内容の要点筆記で行う旨が確認された。
- 6 報告
  - ・第4期宗像市幼児教育振興プログラムについて【資料1】
  - ・令和4年度幼児教育事業計画について 【資料3】
- 7 協議
  - ・今後の幼児教育事業について
- 8 あいさつ

### 【委員からの意見】

#### 基本施策 1

- ・保育者の資質及び専門性向上に向けて、初任者研修を大切に取り組んで欲しい。今年度の新卒の保育者はコロナ禍の中、教育実習が制約の中で行われ、コミュニケーション能力が育ちにくい部分があった。

市がコロナ禍の陽性保育者のよりよいサポートができるよう、専門的な資質能力を向上する研修など幼児教育事業計画に反映してほしい。

#### 基本施策 2

- ・福岡教育大学附属幼稚園で実施した保幼認小の研修会は、参観後に保育士と小学校教諭が意見交換することでとても充実した時間となった。
- ・幼稚園の立場からすると、小学校の教諭が実際に保育を体験することで、見方、考え方が変わってくるので、現場での体験の場を取り入れるとよい。また、逆に園の先生が小学校で体験することも大切である。

### 基本施策 3

- ・どこの園がよいか、また保育園と幼稚園ではどちらが良いかなど悩んでいる人が多い。
- ・コロナ禍の中、感染リスクを考え、子育てサロンを開くことを躊躇し現在締めているが、保護者は、遊び場を欲しがっているのが現状である。

### 基本施策 4

- ・園でも配慮が必要な子が増えてきた。その子にとって発達に助けが必要なことを繋げていけるよう考えている。療育施設は増え繋げやすくなったが就学相談の枠がなく繋ぐことが難しい。
- ・昨年の庁内連携会議についての内容を知りたい。

【事務局】子ども支援課(子ども相談係)が担当している庁内連携会議は毎週実施している。

配慮が必要な子どもに関する会議は、庁内及び関係機関でその都度状況に応じて行い、情報共有を行っている。

- ・就学相談の枠を拡げてほしい。

【事務局】就学相談とは教育支援委員会のことで、関係する場所は特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室などである。

相談期間は6月から12月、月2回実施。1回の相談人数は15名から20名。年間で200件の相談を受けている。

年長児の相談は年間60名から70名ほどで、年々増加している。現時点で相談は定員に達し、キャンセル待ち。就学相談が受けられない場合は4月からは通常学級でスタート。就学相談の実態をどのように打開していくかが今後の課題である。

就学相談を受けた子が全員特別支援学級に入るわけではないが、相談を受ける子が増加しているのは現状である。

他市町村と宗像市の就学相談現状を踏まえ、教育委員会と相談していきたいと考えてる。

- ・就学相談の希望者が多ければ、保護者の不安を解消できるよう相談窓口を増やすとよい。
- ・生活リズムなどを園と家庭とで見守っていきながら、入学がスムーズにいくよう過ごしていきたい。
- ・子育て支援センターでは、育てにくいという保護者の相談があるが、課題がある子なのか保護者の関わり方によって子どもの行動が変わるのかという判断がつきにくい。
- ・配慮が必要な子どもの保護者から、なかなか希望の園に入れないという方には、なるべく早めに園見学に行き、相談すると良いと伝えている。
- ・令和3年度の審議会資料によると、のぞみ園に登録している幼児の数は増加している。これは、宗像市だけなのか、全国的なものなのか、その原因について他市町村の情報も収集し探る必要がある。データは事務局で集められると思うが、分析等については、福岡教育大学等の専門機関と連携して進める必要があるのではないかと。
- ・令和3年度の審議会にて提案された以下の3つの点を今後、市に検討していただきたい。
  - ①宗像市の相談先や仕組みなどのフローチャートがあるとよい。
  - ②保護者がふくおか就学サポートノートを活用して学校に情報提供し、学校が子どもが学ぶ権利を擁護する立場になるとよい。
  - ③配慮を必要とする子どもの保護者が、子育ての様々な力をつけることができるよう周りが理解し包み込むことが重要である。

- ・のぞみ園の利用者の対象年齢は2歳児から年少までで、年間を通しての利用者は300人程。
- ・子ども家庭相談室と日頃から連携している。気軽に情報共有し、連携を図っている。
- ・子どもの具体的な対応の仕方が知りたい。
- ・療育施設側も療育の現場のフィードバックだけで終わり、家庭での対応や困り感まで十分に支援できない場合もある。
- ・保護者も勉強している人が増えているが、教科書どおりに行かず、うまくいかない場合のサポートが必要。トライ&エラーを繰り返し、基盤ができるまで寄り添っていく。保護者の失敗体験が重なり、子どもを怒って子どもの自己肯定感が下がり、障がいにつながるケースも見られる。
- ・宗像市には、年中健診、巡回相談など早期発見・療育につながりやすいものがあるので、そこをサポートできるような体制が整うとよい。他市町村には NPO 団体に委託して「ペアレントトレーニング」を取り入れてるところもある。
- ・就学相談につながっても枠がいっぱいで受けられない子がいることが残念である。他市町村の進め方などを参考にし、より多く支援につながるとよい。

## 6 その他

- ・第2回の幼児教育審議会の日程について